

小松からF 1 5戦闘機がインド空軍との共同訓練に参加

岸田政権は米、豪、印や韓国と連携して、さらなる中国包囲網をつくろうとしています。インド空軍が初めて茨城・百里基地に飛来し、1月16日から26日まで小松のF 1 5戦闘機などと共同訓練を実施し、同盟国・同志国との連携を強化しています。さらに先制攻撃力を強めるためF 3 5 Aステルス戦闘機の配備を25年に4機、26年に8機、28年までには20機の攻撃体制をつくろうとしています。対中・対北朝鮮・対ロをにらんだ「戦争準備」に反対していかなければなりません。

アグレッサ―墜落事故の原因を隠ぺいする防衛省

22年1月31日夕刻、離陸したF 1 5戦闘機（アグレッサ一部隊司令が操縦し教官が同乗）がその一分後に基地沖の海に墜落しました。異様なほどの捜索態勢が敷かれフライトレコーダは2月25日に発見されました。私たちは基地に対して即刻抗議し「全てのフライトを中止せよ」と墜落抗議、原因究明、飛行中止を迫りましたが、墜落原因も分からないまま「F 1 5のスクランブル」を続けました。市民・県民の命より「防空」が重要だという非人間的で、反労働者的な対応を続けたのです。

6月末、防衛省は、「操縦士の空間識失調」が墜落原因だとして司令と指導教官に責任を押しつけ、全てを防衛秘密の中に葬り去ったのです。

1969年2月8日、金沢市内にF 1 0 4戦闘機が墜落し多くの死傷者を出した事故の原因が「ベトナム戦争」への「臨戦態勢」であったように、今回も「尖閣・台湾・北朝鮮」有事に対する「臨戦態勢」であったことは誰の目にも明らかです。F 3 5 Aステルス戦闘機の配備に反対するとともに、基地爆音訴訟とも連携していかなければなりません。

(2022年2月1日 北陸中日新聞)

小松基地F 1 5海に墜落

2人搭乗、機体一部発見

三十一日午後五時三十分、航空自衛隊のF15戦闘機が小松基地を離陸した直後、基地の西北西約五キロの海上で、レーダーから消失した。この付近で、機体の外殻の一部や機体部品が浮いてくるのを見、F15のものだと推定された。乗員は二人だった。乗員が離陸した際に発見される確率は低いと推定されている。船長の被害情報は入っていない。関連記事



過去の主な航空自衛隊の戦闘機事故

1969年2月	金沢市内の住居密集地にF104戦闘機が墜落。4人死傷し、23人が重傷。
96年11月	石川県の海上でF15戦闘機が墜落。パイロットは生存したが人なし。
2008年8月	山口県でF15戦闘機が墜落。パイロットは死亡。
11年7月	茨城・百里基地でF15戦闘機が墜落。パイロット死亡。
10年	石川県の海上でF15戦闘機が墜落。パイロット死亡。
18年11月	九州でF15戦闘機が墜落。パイロット死亡。
18年2月	山口県でF15戦闘機が墜落。パイロット死亡。
4月	F35A戦闘機が太平洋上で墜落。パイロットは死亡。
21年4月	山口県でF35A戦闘機が墜落。パイロット死亡。

空自によると、不明な原因で墜落したF15は小松基地に拠点としており、飛行訓練の一環として、この海域に飛来する予定だった。この海域は、一帯、石川県の海上で墜落したF15の機体部品が浮いてきた。この海域は、一帯、石川県の海上で墜落したF15の機体部品が浮いてきた。この海域は、一帯、石川県の海上で墜落したF15の機体部品が浮いてきた。

戦争も核も基地も原発もない平和な未来をつくろう！



23年1月5日、ANA ホリデイ・イン金沢スカイにおいて、県勤労協と共催で「2023年新春の集い」を開催しました。

的場(共同)代表が司会を務めるなか、主催者挨拶で宮岸(共同)代表は「岸田政権による安保三文書の改訂は『専守防衛』を大転換させるものであり、戦争につながる動きを阻止しよう」と訴えました。

小松爆音訴訟を闘うピースセンター小松の今村副代表、志賀原発廃炉に！訴訟の北野原告団長が引き続き連帯することを訴え、統一地方選は「反戦・平和」と結合して闘うことを確認し、

新年のスタートを切りました。